

京都大学 指定国立大学法人構想概要

京都大学 基本理念

創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、
多角的な課題の解決に挑戦し、**地球社会の調和ある共存に貢献する**



新たな知の創造・イノベーションの確立・未来社会への指針を示すための取組を実行

柔軟かつダイナミックな体制による知の創造

- 複数の領域で世界の最先端研究をリード
- 融合領域の新規開拓、強い分野の国際展開

1 世界を先導する最先端研究の推進

1) 再生医療と先端医学研究

- ・人々の健康と超高齢社会における医学医療の未来創成に貢献

2) 化学と生命科学の融合

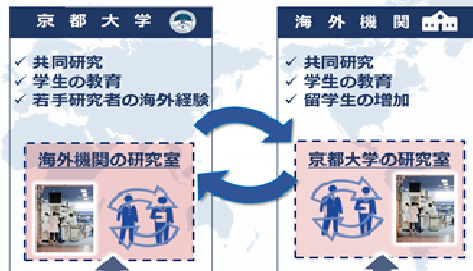
- ・広範な領域で新しい学術分野の開拓

3) 高等研究院

- ・卓越した研究者の英知が結集する国際研究ハブ

2 On-site Laboratory

- ・海外の大学や研究機関等との協働による現地運営型研究室(下図:イメージ)



現地企業等との交流

高度で多様な頭脳循環の形成

- 教育の一層の国際化
- 多様な人材の育成・輩出、優秀な人材獲得

学生対象

1 Kyoto iUP (Kyoto University International Undergraduate Program)

- ・国内外の学生に開かれた国際学部教育プログラム

2 卓越大学院プログラムによる博士人材(「知のプロフェッショナル」)の育成

3 大学院教育支援機構の設置

1) GST(Graduate Student Training)機能の強化

- ・大学院生の教育研究能力向上のための全学研修体制の構築

2) 留学生リクルーティング

- ・優秀な留学生の戦略的獲得の推進

4 大学院生・留学生への各種施策の展開

研究者対象

1 白眉プロジェクト

- ・学術領域を問わず世界中から優秀な若手研究者を獲得

2 若手教員数の増加

- ・第4期中期目標期間内に本務教員に占める若手教員比率を30%に引き上げ

新たな社会貢献を目指して

- 産官学連携活動を推進する体制の構築
- これまでの学術的成果を背景とした現代世界の諸課題解決への貢献

産官学連携

1 産官学連携の新しい「京大モデル」の構築

- ・大学出資による機能別事業子会社の設立・運営
 - ①総研機能(コンサルティング・シンクタンク事業等)
 - ②技術移転機能
 - ③ベンチャー支援機能
- ・ホールディング・カンパニー(持ち株会社)の設立を志向

2 既存の枠組みにとらわれない産官学連携の促進

- ・「組織」対「組織」による共同研究スキームをより一層推進

社会への貢献

1 日ASEANの協力関係のより一層の推進

- ・包括的な学術・科学技術協力の推進により、「持続可能な開発」に貢献

2 人文・社会科学の未来形の発信

- ・国際化の推進、文理融合による新学術領域の創成

世界に伍する京大流大学運営

- 大学運営におけるトップダウンの方針とボトムアップの意思の調整に基づく全学的な戦略立案の必要性
- 大学独自の戦略的活動を支える安定的な自己財源の必要性

ガバナンスの強化

- 1 京大版プロボストと戦略調整会議(カウンスル)
- 2 国際的視野によるエビデンスベースの大学運営(国際戦略本部、IR、URA)
 - ・執行部と部局・学系間との密接な連携調整のもと企画・戦略立案

財務基盤の強化

- 1 自己収入の拡大
 - 1) 寄附金
 - 2) 社会人学習プログラム
 - 3) 資産の有効活用
- 2 収益事業の展開